

## “未来の価値”を創造 SDGs経営を実践する

ハリタ金属株式会社  
代表取締役社長

張田 真 氏



思います。  
ご自身はその頃には入社されており、2010年に社長に就かれました。

社長就任と同時に「聖域なき改革」を公言し、まずは当時売上の4割を占めていたアルミ事業に手を入れ、選択と集中を進めました。将来性のあるビジネスへシフトするため、「溶かす」から「分ける」へビジネスモデルの転換です。その他、付加価値の低い事業から未来の事業へ経営資源をシフトしていきました。

社内の反応はどうか。

人間は本能的に変化を避けようとするため、社員には不安もあったかと思います。改革と共に会社の行き先を言葉で明確にしなければいけない、理念が大切だと思い、1年がかりで考えて、2012年に「We create. (私たちは、つくる)」と掲げました。

社員には「社会的意義ある新たな価値をつくる」と言い続けました。当初は理解を得るのも大変でしたが、先の選択と集中をした3年後に過去最高の利益率を達成すると、変化する必要性を理解してもらえました。

－幸せの伝播をパーパスに－

2030年に向け、会社のパーパス、ミッション、ビジョンを刷新されました。

社内のPJチームで会社の存在意義を議論して、練り上げました。パーパスを「For Well-being (幸せの伝播で、人と地球を未来へつなぐ)」、ミッション「We create.」、ビジョン「We change. (私たちは、未来を変えていく)」を策定しました。Well-beingについては、社員個人の幸せを実現した先に、事業で組織、地域、地球へ幸せを伝播

させると定義しています。自利利他の精神です。

経営者として個人の“幸せ”に言及するのは覚悟があるのですが、何よりも社員から信頼を得るには必須だと判断しました。幸せを原動力に、環境価値、社会価値、経済価値を高め、2030年に今の3倍の売上高300億円を目指して取り組んでいきます。

さらに当社の戦略立案プロセスにSDGsを反映した経営システムを作りました。事業活動とSDGsを同期させ、Well-beingを実現していきます。

人材育成にはどのように取り組まれていますか。

私はまず、組織経営に必要な体制整備から取り組みました。プレーヤーとマネジメントの違いを明確にし、自ら考えるリーダー育成に教育体制も整備しました。

組織はサブリーダーのポジションが育つと強い組織になります。その日を目指してきましたが、今年サブリーダーになりたい人を募ると20人もの希望者がありました。苦労もありましたが、最近組織力の強化に手ごたえを感じております。

うまく効果が出ている理由は？

ミッションと評価基準を明確にすることだと思います。今期から改定した人事制度では、リーダー

の評価基準に「部下育成」を盛り込みました。何を達成すると評価されるのかを決めることは会社の将来を決めるくらいに重要です。言うまでもありませんが、会社の存在意義や経営理念を言葉にして伝え、それを人事制度と連動することが重要です。社員は可能性に満ちており、共感さえしてもらえれば大きな成果を出していく姿を目の当たりにし、感謝と共に感動しています。

働き方改革に関していかがですか。

労働人口が減る時代は労働者から選ばれる時代になると判断し、働き方改革にも強力に取り組みました。時間外労働の削減や有給休暇の取得促進を実現するため、人員も大幅に増やしました。現在、有給休暇の取得率は90%を超えていますし、昨年、業界で初めて完全週休2日制を導入しました。社員の副業も認めています。

－循環経済型ビジネス普及へ－

先回りした経営が光りますね。

欧州への出張も多く、CO<sub>2</sub>に対する意識の違いに気づき、問題意識を持ちました。資源循環とエネルギーは密接になると仮説を立て、2014年に産学官連携でアルミのソーティング技術開発の国家プロジェクトのプロジェクトリーダーを務めました。一般的にアルミのリ

サイクルは、色々なアルミ合金と一緒に溶かして再生していますが、レーザーで判別して合金系別に分ける選別装置「LIBSソーター機」を開発しました。

これにより、廃棄新幹線のスクラップを用いて世界で初めて高速鉄道のアルミ水平リサイクルを実現しました。2020年に運用が開始された次世代新幹線・N700S車両に弊社のリサイクルアルミが使用されています。

昨年3月には「循環経済協会」を三菱UFJグループのシンクタンクと一緒に立ち上げました。サーキュラーエコノミー（循環型経済）の普及に努めていきます。

今後は製造者責任が厳しくなります。資源のリサイクルという本業領域をさらに磨きながら、カーボンニュートラル、エネルギー問題といった社会課題に対して、新しい視点を持ってお役に立ちたいと思っています。

座右の銘をお聞かせください。

「知行合一」です。知識は行動し結果を出すためにあります。課題に満ちた社会に実行ベースのソリューションを提供していこうと肝に銘じています。

### 会社概要

#### ハリタ金属株式会社

創 業：1960(昭和35)年6月  
所 在 地：高岡市福岡町本領1053-1  
資 本 金：5,000万円  
事業内容：産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬・中間処理、鉄スクラップの破碎・選別、家電・自動車等リサイクル事業  
従業員数：276名(2022年6月末現在)  
売 上 高：75億2,161万円(2021年6月期)  
事 業 所：射水リサイクルセンター、金沢支店、富山支店  
U R L：https://www.harita.co.jp/



富山県成長戦略カンファレンスのトークセッション(2022年3月21日、富山国際会議場)

### 略 歴

1969(昭和44)年7月高岡市生まれ。1993年摂南大学薬学部卒。サンド薬品(株)(現ノバルティスファーマ(株))、医療法人での薬剤師勤務を経て、99年ハリタ金属(株)入社。2010年から代表取締役。経産省ISO/TC323 Circular Economy 国内検討委員会委員、富山大学非常勤講師等も務める。

循環型社会へ向かう中、リサイクル事業の重要性が一層増しています。会社の沿革からお尋ねします。

1960年、父の張田昭夫が金属資源回収業を始め、日本の高度経済成長に乗って自動車リサイクル、産業廃棄物収集運搬、処分へと事業を広げてきました。

2001年に日本が世界に先駆けて家電リサイクル法を施行した際、

当社は再商品化工場として大臣認定を受け、この国家プロジェクトに関わります。フロンなど有害物質の取り扱いや、多様な素材の回収・運搬・処理のスキーム作りなど、様々な課題に家電メーカーと一緒に取り組みました。コンプライアンス、安全を重視した活動が求められ、製造業と協業したことで会社の文化も大きく変わったと